



海地獄



村あさ 二宮 保典

御当地ではPPKなんだが、奈良の地ではPとGである。Gは極楽のG。うーんそうか。

「ア！極楽、極楽」と風呂に入り、体も気分も気持ち良くなると思わずこんな言葉が出る。

「おう、そういえば、極楽にお風呂あつたけ？」「天女様は御座るだろうが、綺麗なネイちゃんとは違うだろう」「なんかクルセイダーズの歌を思い出すが、あれは天国でしたか？」

仏典に記載するのは、「長老舍利弗、從是西方、過十萬億土、有世界、名曰極樂、又舍利佛、極樂国土、七重欄楯、七重羅網、七重行樹、皆是四寶、周匝圍繞、是彼國、名曰極樂」。極樂は、西方十萬億土にあり、西方世界、北方世界、下方世界、上方世界に数多く数えきれないくらいの仏様がいらっしゃる。四六時中雅な音楽が流れ、様々な鳥達が囀り、素晴らしい建物立ち並び、内には金銀瑠璃玻璃瑪瑙で飾られている。池が沢山あり、池の底には金銀敷き詰められて、蓮華の大きな花が咲き乱れている。色は青、赤、白、黄、微妙

な香りが漂うらしい？と記載があるが、なんだかのんびりしていそう。天国いや極楽へ行きたいと思いませんか？しかし、極楽へ行けない時は地獄にしか行けない。地獄の語源はNarak。音写で奈落。そう舞台の地下空間である。あすこも地獄なのだ。地獄にも色がある、黒である。餓鬼は赤、畜生は黄、修羅は青、この三色を混ぜると地獄の黒になると言われる。節分で追われる赤鬼、黄鬼、青鬼はここから来ている。日本の仏教では、死後、人間は三途の川を渡り、7日ごとに閻魔をはじめとする十王の7回の裁きを受け、最終的に最も罪の重いものは地獄に落とされる。地獄にはその罪の重さによって服役すべき場所が決まっており、焦熱地獄、極寒地獄、賽の河原、阿鼻地獄、叫喚地獄などがあるという。そして服役期間を終えたものは輪廻転生によって、再びこの世界に生まれ変わるとされる。ところがその期間たるや、この地獄における罪人の寿命は500歳である。ただし、通常の500歳ではなく、人間界の50年を第一四天王(四大王衆天)の一日一夜とした場合の500年が等活地獄の一日一夜であり、それが500年にわたって続くので、人間界の時間に換算すると1兆6653億1250万年にわたって苦しみを受けることになる(1年を365日とした場合の計算)。しかし、それを待たず中間で死ぬ者

もいる。ほとんど永遠である。とてもじゃないがこの世に生まれ変わる事なんて出来やしない。

かの地、大分の別府で地獄に出会った、極楽ではなくて、何故か惹かれる地獄。毛むくじや、剛鬚長く胸まで垂れ下がりタリ間魔様が居て、真つ赤な唇、真つ赤な舌で、その前で生前の行いを話すことになる。生前情報に辻辻に立つお地蔵さんから送られている。その情報と照らし合わせて「お前は嘘ついた、よし舌を出せ」間魔様は、大きなベンチを取り出し、舌を抜く。「あれあれ舌がもう一枚あるぞ、それも抜こう、えいや」「うんーよく見ると小さいがもう一枚あるぞ。なんだ二枚目か、よしついでにこれも抜こう、それーい」。

「勿論あんたは地獄行き」。三途の川の渡し賃を忘れても憂が言いつけて地獄へ行くようだ。色とりどりの鬼達が踏み股を振り回し罪人を追い回し血の池へ落とす。

六道ならぬ八湯めぐり。地獄にも色々アア。処は別府、鉄輪(かんわ)千年前より噴気、熱泥、熱湯などが噴出して、温泉口を地獄と呼んでいる。鉄輪の街に湯煙が立ち上る。「日本に残したい風景百選」で全国第2位に選ばれた。

竜巻地獄 之は間欠泉20mの高さに吹き上がる。その高さのあまりの危険さに現在では石で約5mの高さで蓋をしている。時間が来るとその地面がポコポコとしたかと思うと

氣に噴水の如く湯が吹き出し立ち上る。恐ろしや。天然記念物に指定されている。

海地獄 98度もあるコバルトブルーの池、深さ200m。約1200年前貞観九年正月鶴見岳噴火で出来た熱泉、途中の蓮池には大鬼蓮。20kほどまでの重さに耐える、七色の花が咲く蓮池。明治43年宇都宮側副が海地獄を借り受け遊覧施設作り2銭の入場料を徴収した。これが観光の始まりである。別府観光の祖。油屋熊八は昭和二年、日本では初めて女性バスガイドと遊覧バスを発売し、バスガイド付き観光バスの発祥の地である。昭和天皇、天皇后陛下、ヘレンケラー、皇太子も訪れている。温泉に卵を入れて温泉卵として食べられる。何故か極楽饅頭が売られている。

鬼石坊主地獄 灰色の熱泥が大小海坊主の頭のように漂っている。凡そ180年前、この地に大地震が起り延内寺の床下から大爆発して、住職の内坊と寺院は、瞬にして噴き上がり、瞬く間に地の底深く姿を消した。ナンマイダブツ。絶え間なく噴き上がる熱泥が坊主頭の様で、寺の跡でもあり坊主地獄と名付けられた。天然記念物に指定されている。

かまど地獄 氏神龍門八幡宮の大祭に地獄の噴気で御供飯を炊いた習わしがあった猛烈な噴気と高温温泉。大きな竈の上に鉄棒持った赤

鬼が居る。こる。

鬼山地獄 別名餓地獄、食糧難を見越して飼養殖を始めた。2m、3mの巨大な鰐がごろごろ寝そべっている凡そ70匹。

白池地獄 噴出時には無色透明であるが、その熱湯が池に落ちると、温度と圧力の低下により自然に青白色を呈してくる。池全体は真っ白である。

血の池地獄 煮えたぎる粘土は噴気まで赤色。豊後風土記に赤温泉と記されている。皮膚病に効く血の池軟膏あり。

明礬地獄 温泉を開いたのは一遍上人と言われている。像もある。毎年9月には湯あみ祭りあり。湯の湯蒸しの湯、水稲寺。温泉の入口にお地蔵様がいらっしやる。天然記念物無形文化財指定されている。青粘土に地下より噴出する噴気が浸透して表面に結晶状となり約1ヶ月で明礬として採取出来る。

紺屋地獄 豊後風土記に記載あり、この地獄から採取される紺泥の特殊性について、前九大温泉治療研究所長の八田博士が述べている。「適度な噴気と腐植粘土と地下水とが三拍子そろって恵まれた条件のもとにのみ産出され、どこにでも出るものではない。」

紺泥に泥をうす割加えて用い、血圧を下げる血糖を押さえ、リウマチ、関節炎、神経痛などの応用範囲を持つ。水俣病の水銀排泄にも著効を

示したそう。だ。泥湯あり

「山は富士、海は瀬戸内、湯は別府」地獄少女間魔のあいは午前0時に待ち受けをしている。地獄に行かせたい奴の名前を言えば、地獄に流してくれる。よし、別府の地獄へ彼奴を流そう。そして自分も別府の地獄へ行こう。なんといつでもその地獄は温泉なんだから。

